災害廃棄物に備えた住民参画の取り組みの重要性について

環境省 近畿地方環境事務所 資源循環課 山根 正慎（やまね まさのり）

近畿ブロック協議会の取り組みについて

2014（平成26）年度に地方環境事務所（環境省の地方支署）が中心となって、地域における大規模災害への対応力向上を目指し、国、地方公共団体、業界団体等の各種団体等の連携強化を図るため、地域ブロック協議会または連絡会を全国８箇所に設置しました。近畿ブロック（滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県の２府４県）では、近畿地方環境事務所が中心となり、2015（平成27）年１月に「大規模災害時廃棄物対策近畿ブロック協議会」（以下「近畿ブロック協議会」）を設置し、現在、地方公共団体・民間団体等オブザーバーを含め39組織から構成されています。

本協議会の下に「府県ワーキンググループ（WG）」「政令市・中核市WG」「推薦市WG」「有識者WG」の各WGを設け、災害時の廃棄物対策について情報共有を行うとともに、大規模災害発災時の広域的な連携について検討し、大規模災害発災時の近畿ブロックでの行動計画の策定・見直しを実施しています。

本協議会では、平時から災害廃棄物に対応できる体制構築を目指し、人材育成のための自治体の初任者向け講習会の開催や、発災時の災害廃棄物対応の実効性確保のため、各自治体が主体となって実施する各種調査・模擬訓練・仮置場候補地現地調査・市民向け情報発信の検討等の取組（各種モデル事業）支援を行なってきました。本稿では、これまで行なってきた各種モデル事業の中から、特に平時からの市民の取組支援につながる住民啓発モデル事業の２事例について、紹介します。

宇治市（京都府）における災害廃棄物処理住民啓発モデル事業

被災現場では被災者が排出する片づけごみが公園等に持ち込まれ、無秩序に積み上げられる状況が近年の災害現場で散見されます。こうした事態の発生を防止するため、住民向けに災害時における片づけごみの適切な排出方法や、平時における家の中の退蔵品の排出促進について理解を醸成する必要があることから、本事業を2022（令和4）年度に実施しました。

本事業では住民等への意識啓発を目的として、宇治市および槇島東地区防災対策会議と連携して住民向け模擬訓練を行いました。また、訓練実施の結果や取りまとめた意見等を踏まえて、『災害廃棄物処理ハンドブック（案）』†および『災害で出るごみの出し方災害廃棄物処理マニュアル（案）』を作成しました。模擬訓練の実施およびハンドブック等の作成にあたっては、計３回のワーキング会議を実施しました。

† 災害廃棄物処理ハンドブック：発災時の廃棄物の出し方等は市町村ごとに異なるため、こうした「ハンドブック」、「手びき」等は、自治体ごとに出されています。

BY-NC ©2024 山根 正慎　この記事はクリエイティブ・コモンズ［表示 - 非営利 4.0 国際］ライセンスの下に提供されています。　https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja

宇治市における自治会の住民等と連携して、住民向け模擬訓練を実施した。

住民等への意識啓発を目的として、宇治市および槇島東地区防災対策会議と連携し、住民向け模擬訓練を実施した。

【ワーキング会議】

模擬訓練前、模擬訓練後、ハンドブック等完成前の計３回のワーキング会議を実施。

実施内容：第１回（9/17）：災害廃棄物に関する基礎
第２回（10/29）：模擬訓練の振り返り
第３回（1/22）：ハンドブック等への意見交換

【模擬訓練概要】

日時：令和４年10月29日（土）
開催場所：宇治市内（槇島公園・宇治廃棄物処理公社）
参加対象：槇島東地区住民、宇治市、京都府、有識者、ボランティア、関係団体等
実施内容：
・住民の方が、自宅から集積所まで、事前に回答した片づけごみを搬出。
・宇治市廃棄物担当職員が、集積所の設置から廃棄物の受入、一次仮置場までの運搬のシミュレーションを実施。

訓練結果を踏まえ、以下のマニュアルを作成。
●災害廃棄物処理ハンドブック（A４×６頁）
●災害で出るごみの出し方災害廃棄物処理マニュアル（A４×12頁）

【訓練当日のスケジュール】

時間	内容
8:00～9:00	市民仮置場の設置
9:00～9:45	宇治市及びボランティアによる希望された方の退蔵品の回収
10:00～11:00	住民の方がご自身で市民仮置場に搬入
11:00～12:00	搬入された退蔵品を宇治市が運搬車両へ積み込み
12:00～13:30	市民仮置場の撤収
13:30～14:30	一次仮置場への運搬・搬入

図１　発災時における住民用の災害廃棄物搬出等マニュアル作成支援事業（宇治市：事業概要）

2022（令和４）年10月29日に実際された模擬訓練では、住民および行政職員等が参加し、事前に槇島東地区（1自治会）の各家庭で用意した実際の退蔵品ごみを片づけごみと模して、市民仮置場への排出・受入訓練を実施しました。また、市民仮置場から一次仮置場への運搬については市職員の模擬訓練として実施しました。

模擬訓練当日のプログラムは、以下のとおりです。

・前半：住民の方が、自宅から市民仮置場まで、事前に回答した片づけごみを搬出。
・後半：宇治市廃棄物担当職員が、市民仮置場の設置から廃棄物の受け入れ、一次仮置場までの運搬のシミュレーションを実施。

地域住民の方には事前にアンケート調査を行い、模擬訓練当日に搬入予定のごみの種類や量、持ち込み方法、当日のごみ搬出等における支援の要否を確認しました（図１参照）。

当日の様子は図２のとおりですが、全体で50世帯から143品目の災害廃棄物

図２　発災時における住民用の災害廃棄物搬出等マニュアル作成支援事業（宇治市：模擬訓練の様子）

を想定した廃棄物（退蔵品）を受け入れました。模擬訓練実施後にアンケートを実施するとともに、訓練実施後に２回の住民参加のワークショップを開催し、集約された意見を『災害廃棄物処理ハンドブック（案）』に反映させています。

本事業の成果である『災害廃棄物処理ハンドブック（案）』では、従来の住民啓発を目的とした各種ハンドブック等と比較して、以下の特徴を有しています。

・高齢者にとっては災害廃棄物の自宅からの搬出・仮置場までの運搬が困難であることから、平時からの退蔵品削減等の取り組みを大きく紹介。具体的には、①家庭に退蔵しがちであり、リサイクルルートが広く知られていない各種小型家電・布団・衣類等のリサイクルルートを紹介、②発災時の連携協力を図るための顔の見える関係づくりの必要性を記載しています。

・仮置場の機能・分別の必要性等が模擬訓練を行うことで強く実感できたとの評価であったため、ハンドブックでは災害廃棄物処理全体の流れの中で、住民仮置場（近隣公園等）の役割および分別の役割・種類等の明記を行いました。また、住民が混同しがちな従来の生活ごみは、日常のステーション回収とすることを記載しています。

本事業によってとりまとめられた『災害廃棄物処理ハンドブック』は宇治市によって住民向けに配布される予定です。

かつらぎ町（和歌山県）における災害廃棄物処理住民啓発モデル事業

住民等への意識啓発および発災時の実効性確保を目的として、和歌山県およびかつらぎ町と連携して住民向け模擬訓練を 2020（令和２）年度から 2021（令和３）年度にかけて実施しました（図３参照）。

模擬訓練では、和歌山県かつらぎ町新城地区の住民を対象に、住民の方が自宅から集積所まで事前に回答した片づけごみの搬出を行いました。また、かつらぎ町廃棄物担当職員が、集積所の設置から廃棄物の受け入れまでの一連のシミュレーションを実施しました。この模擬訓練では以下の効果を得ることを目指しました。

①片づけごみの分別搬入の重要性を確認
②住民の方の片づけごみ排出の疑似体験
③町廃棄物担当職員における災害廃棄物処理対応の疑似体験
④関係団体を含む関係者との実践的な交流・意見交換

このため、模擬訓練当日の午前中はかつらぎ町新城地区交流センターにて、住民向けに学識者の講演や防災落語により災害廃棄物の基礎的事項の理解を

住民等への意識啓発を目的として、かつらぎ町および和歌山県と連携し、2020（令和２）年度事業で実施した事前準備の成果を踏まえて、住民向け模擬訓練を実施した。

【模擬訓練概要】

日　　時：2021（令和３）年 11 月 28 日（土）
開催場所：かつらぎ町　新城地区
参加対象：新城地区住民（23 世帯）、かつらぎ町、和歌山県、有識者、ボランティア、関係団体
実施内容：
・住民の方が、自宅から集積所まで、事前に回答した片付けごみを搬出する。
・かつらぎ町廃棄物担当職員が、集積所の設置から廃棄物の受入れまでのシミュレーションを実施する。
期待する効果：
・片付けごみの分別搬入の重要性を確認
・住民の方の片付けごみ排出の疑似体験
・町廃棄物担当職員における災害廃棄物処理対応の疑似体験
・関係団体を含む関係者との交流・意見交換

実施結果を踏まえ

かつらぎ町大規模災害時のごみの出し方
模擬実験実施マニュアル【かつらぎ町版】
模擬実験実施マニュアル【汎用版】
を作成した。
（2020（令和２）年度事業で作成した資料を更新）

【当日のスケジュール】

時間	内容
10:00～10:30	受付
10:30～11:20	災害廃棄物処理についての基礎的な事項の説明 ①基礎講座 ［森朋子先生（国士舘大学 専任講師）］ ②防災落語 ［小笠原浩一氏（ゴスペル亭パウロ）］
11:20～11:35	模擬訓練の進め方や注意事項等についての説明
11:35～13:00	昼休憩
12:30～13:00	ボランティアの方への説明
13:00～15:00	模擬訓練
15:00～15:30	新城地域交流センターへ集合
15:30～16:00	意見交換
16:00～16:15	訓練について講評
16:15～16:30	アンケート記入
16:30	解散

図３　住民向け模擬訓練の実施等（和歌山県かつらぎ町事業概要）

基礎講座

搬入の様子

住民仮置場の様子

防災落語

荷下ろしの様子

意見交換

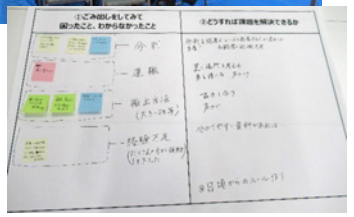

図４　住民向け模擬訓練の実施等（和歌山県かつらぎ町 模擬訓練の様子）

深め、その後、具体的な模擬訓練の手順を説明しました。実際の模擬訓練では住民の方が各自、集積所の開設時間内にご自宅の片づけごみを持ち出して集積所に搬入しました。

実際の様子はおよそ以下のとおりです（図４参照）。

・全体的には、他のごみと混ざったり、分別コーンの外側にはみ出したりせず、かなり整頓された状態で分別されました。
・不燃ごみと金属ごみの隣接したゾーンで混在が確認されました。プラ製衣装ケースやスチール台等の大型ごみが場所をとり、その上に積み上げる形になったためです。
・廃家電､特に電気マッサージ機やフィットネス機、扇風機等の相当古い小型家電が搬入されました｡他にも消火器･塗料等、納屋等に長期間退蔵された品目が確認されました。

訓練後には、交流センターに再度集合し、①実際にごみを出してみて困ったこと、わからなかったこと、②どうすれば解決できるかについて、意見交換を実施しました｡この意見交換の結果､以下のような意見が挙がりました。

・日頃のごみ分別と分別方法が異なるため､集積所での搬出に戸惑ってしまった。
　→災害時の分別の必要性も含め、事前の周知が重要。特に現場でわからない人に教えることができる人材が住民の中で必要。
・大型ごみの搬出は一人では不可能。住民同士の助け合いが必須。
　→平時の関係性づくり（近所５軒の関係性）が重要。
・平時からモノを減らす取り組みが重要。また離れた親族の家の搬出でも、ごみと必要なものとの区別が難しい。
　→平時から退蔵物を減らす意識を持ち、モノを減らすことが重要。

模擬訓練等の結果を踏まえ、本事業では自治体での災害廃棄物処理に係る住民啓発の立案・検討に役立つ他自治体職員向けの模擬訓練実施マニュアルをとりまとめ、和歌山県内自治体展開を図っています。

おわりに

本稿では近畿地方環境事務所と各市町村・府県が連携した災害廃棄物処理支援モデル事業を中心に、住民参画により実効性の向上が期待される２事例を紹介しました。2022（令和４）年度末時点で、自治体の災害廃棄物処理計画の策定率は約 77 %（全国平均約 72 %）に達し、多くの自治体・関係団体における発災時の備えは整備されつつあります。一方、実際に発災した場合には、近年でも迅速に適切な初動対応が図られない事例が多く散見されます。こうした事態を避けるためには、今後、さらなる災害廃棄物処理計画の実効性向上が不可欠ですが、そのためには地域住民の参画が極めて重要です。今後、こうした住民参画の取組促進に本稿がその一助になれば幸いです。

最後に本事業の実施に際して、ご尽力いただいた自治体担当者、京都府宇治市・和歌山県かつらぎ町の住民のみなさま方に改めて深謝の意を表します。